



環境管理

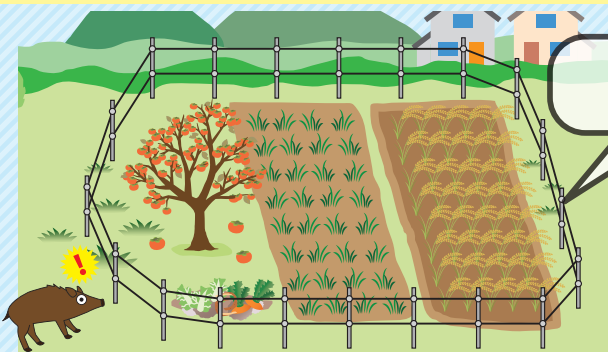
防護

捕獲

野生動物(イノシシ)から『守る』ために

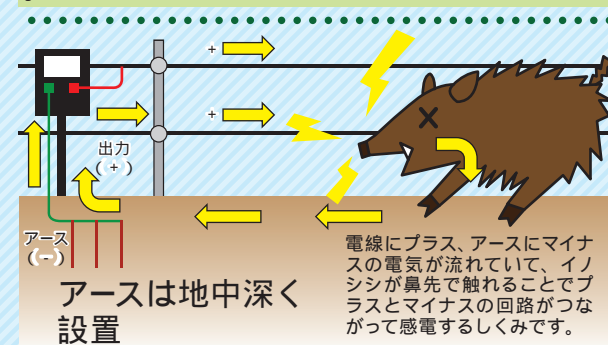
農作物への被害を減らすのはもちろん、集落周辺で人的被害を出さないようにするため、守りたい対象を電気柵などの防護柵で確実に囲いましょう

その防護柵、適切な設置と維持管理ができていますか？



柵で囲って農作物を確実に守る

イノシシは「エサを食べるため」に集落に来る
(エサの例)
農作物、収穫残さ、カキなどの放任果樹、生ごみなど
守りたいものを確実に囲ってエサを与えない



痛い(感電する)電気柵を設置

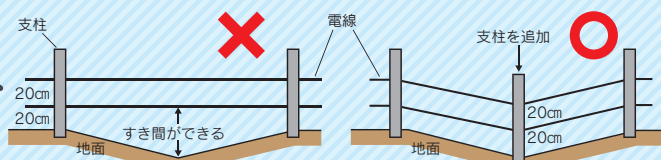
必ず24時間通電

イノシシの鼻先で触れさせる
(体は剛毛で覆われていて
電気を通しにくい)
ダミー柵はダメ
(ロープや鉄条網(有刺鉄線)など)

アスファルトは電気を通しにくいので離して設置
電線にプラス、アースにマイナスの電気が流れていて、イノシシが鼻先で触れることでプラスとマイナスの回路がつながって感電するしくみです。

潜り込める、入れると思わせない

対策の手薄な部分を見つけて狙ってくる
地形に合わせて支柱を追加(すき間を作らない)



地面から20cm間隔で2段張り

対策 電気柵等の防護柵を設置

防護柵を適切に設置して、イノシシが田畑へ侵入しないようにしましょう。

対策 電気柵等の防護柵の維持管理

防護柵の効果を持続させるには、こまめな点検と補修が必要です。

(管理が悪ければ効果はどんどん低下します。)

電気柵は電気ショックによる痛みをイノシシに覚えさせて柵に近付かなくさせるもので、痛くない(通電していない、電圧が低い)電気柵は「ただのヒモ(無いのと一緒)」です。

金網柵も点検補修を怠ると潜り込みなどにより突破されます。

防護柵の設置はゴールではなく、設置後の維持管理が大事

